臨床研修医募集ガイド

人を想うということ。⇒ 人を診るということ。

同志、募集。

HITO 病院

人が真ん中になると、医療は変わる。
目指したのは、病院らしくない病院。

いきるを支える。

人は前を向きながら生きています。

でも、長い人生のあいだには、医療の助けが必要な時もある。

私たちの役目は、そんな時、患者さまを一日でも早く、

いつもの前向きな生活に送りだすことだと思います。

病と向き合うだけでなく、どう生きるかに向き合う。

人がよりよく生きるための、医療のあり方を考える。

「いきるを支える」医療こそ、私たちが目指す医療です。

私たちの病院の名前である「HITO(ひと)」。

そこには、病を診るだけでなく、人を診る医療でありたいという私たちの思いが込められています。

人が真ん中になると、医療は変わる。人が生きる、そのとなりでずっと支え続ける。

私たちは HITO 病院です。

地域の皆さまの「いきるを支える」ために

私たちのモットーである「いきるを支える」という言葉には、病気になって治療や入院をした「ある一点」の期間だけでなく、退院後の生活も含めた患者さんの「人生」に寄り添い、サポートさせていただく、という私たちの想いが込められています。
今後も一歩ずつ前進し、地域に根ざした病院・グループとして良質な医療・介護・福祉を提供できるよう、より一層精力的に取り組んでまいります。

誰からも選ばれ、信頼される病院でありたい。
また、ひとりひとりのスタッフが、HITO病院で働く誇りを持ってほしい。
そんな病院を目指していきます。一緒に頑張りましょう！

社会医療法人 石川記念会 HITO病院
理事長　石川　賀代

若くてアクティビティーが高いフレンドリーな病院

私は 2019 年 4 月に病院長として愛媛大学から赴任して来ました。病院の第一印象は確かに「病院らしくない病院」で、随所に「ヒト」を意識した仕掛けが施されています。更に新鮮だったのは、若い職員が多く活力と“親しさ”を感じたことです。一方、院内では ICT を活用し多職種間の情報共有を促進する取り組みがなされ、働き方改革にも繋がると思いました。また、経済面やタスクシフトなど手厚い処遇も印象的でした。他の機関から赴任した当初しか見えない部分かもしれません。

皆さんの社会貢献とキャリアアップを、病院全体で支援します。我々と一緒に、社会のため、自分のために働いてみませんか。待っています。

社会医療法人 石川記念会 HITO病院
病院長　相引　眞幸

HITO 病院

HITO VISION

ミッション　「誰からも選ばれ、信頼される病院を目指す」
経営理念　HITOを中心に考え、社会に貢献する
行動規範　Human 1st.（患者様第一）

Human 1st.（患者様第一）

患者さまを家族のように想い、温かく接することで、お互い理解し合えるようにとの理念を掲げ、職員は全員「Human 1st.」のバッチをつけています。心を開き、患者さまと公平に向き合うことで、人がいきるそのとなりでずっと支え続ける医療を提供できると考えています。

具体的なアクション

Humanity－患者さまを家族のように想い、温かく接します。

Interaction－患者さまとの対話を尊重し、相互理解に努めます。

Trust－技術と知識の研鑽に努め、信頼される医療を目指します。

Openness－心を開き、患者さまと公平に向き合います。

病院概要

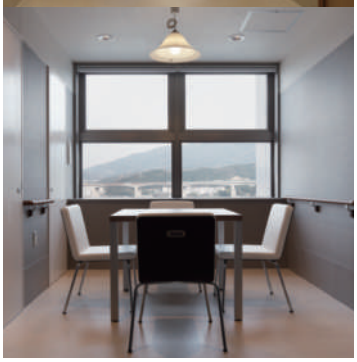
病院名	社会医療法人石川記念会 HITO病院
所在地	愛媛県四国中央市上分町788番地1
	電話　0896-58-2222
代表者	理事長　石川 賀代
診療体制	病床数257床
	（緩和ケア病棟17床、HCU17床、回復期リハビリテーション病棟50床、地域包括ケア病棟53床、手術室、内視鏡室、脳卒中センター、創傷ケアセンター、人工関節センター、糖尿病センター、統合型歩行機能回復センター）

標榜科目

内科 消化器内科 循環器内科 神経内科 緩和ケア内科 糖尿病内科 リウマチ科 外科 救急科 乳腺外科 消化器外科 心臓血管外科 呼吸器外科 肛門外科 脳神経外科 整形外科 形成外科 美容外科 婦人科 泌尿器科 耳鼻咽喉科 皮膚科 放射線科 リハビリテーション科 麻酔科 歯科 精神科

フロア構成

11階	レストラン
10階	緩和ケア病棟　17床
9階	一般病棟　41床（外科・整形外科・婦人科・耳鼻咽喉科）
8階	一般病棟　37床（脳神経外科・循環器内科）・HCU2　5床
7階	一般病棟　42床（内科全般・形成外科）
6階	地域包括ケア病棟　53床
5階	回復期リハビリテーション病棟　50床
4階	手術室 6室・HCU1 12床・美容外科
3階	医局・管理部門・サテライトセンターなど
2階	内視鏡・放射線・救急・健診センター
1階	外来・化学療法・リハビリテーション・ホスピタルストリート・サポートセンター・コンビニ・カフェ
地下1階	給食・検体検査・薬剤・剖検



ホスピタルストリート

外来フロア

4床病室

談話室

特別室 和室

レストラン「SORA DINING」

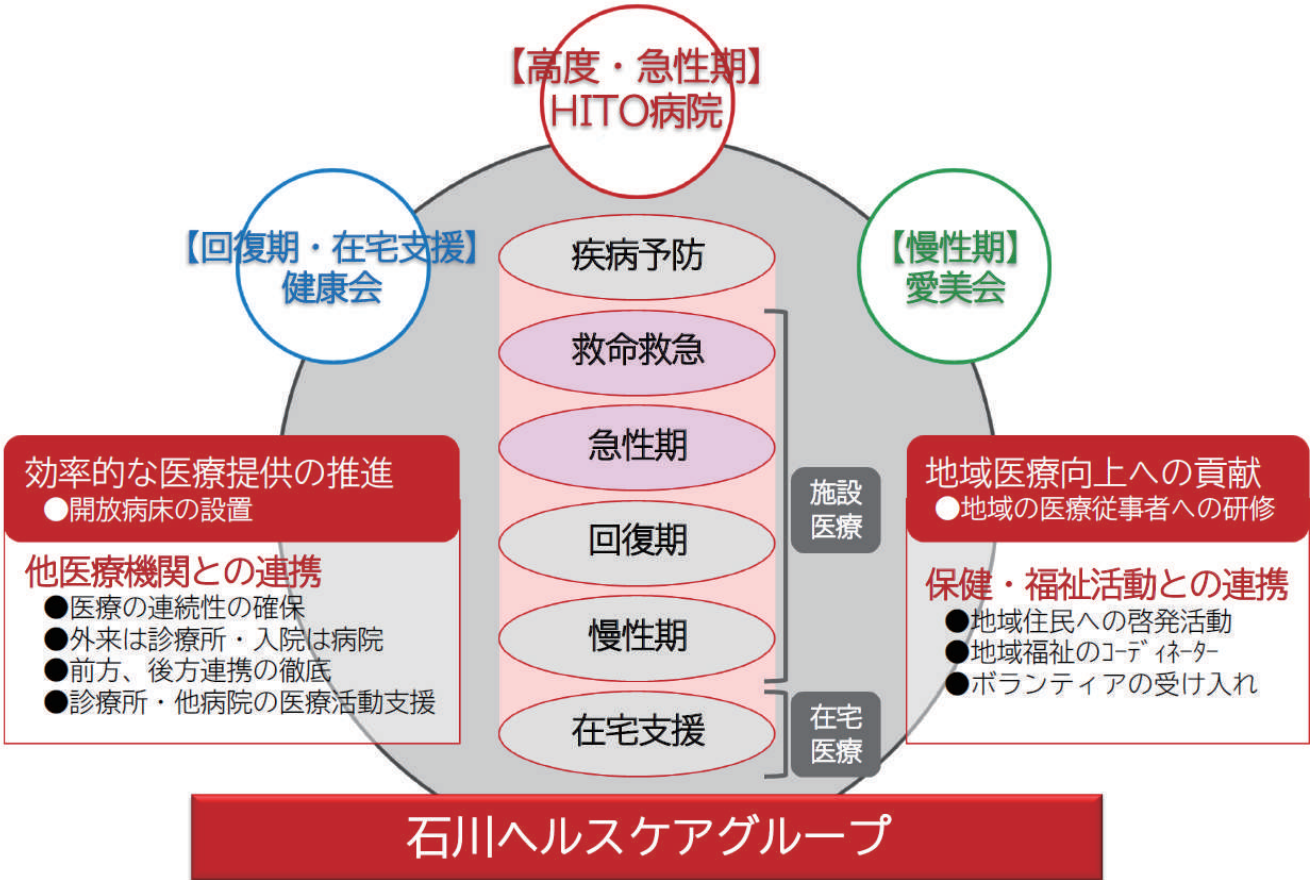
特別室 洋室

HITO病院で実践できること

地域医療と専門医療、HITO病院で経験できます。
手技のチャンスも豊富にご用意しています。

医師としての総合力の習得

当院では、高度急性期から在宅医療まで幅広く学ぶ事ができます。
研修医のキャリアパスにおいて、高度急性期から慢性期までの異なる病床機能や在宅医療に従事することができる環境で研修する事は、将来自分の専門分野を決定する上で役立ちます。またあらゆるセンターやチームという形で組織力を結集し、地域包括ケアシステムの実現に向けて活動しています。



高齢者人口増加の影響もあり、
医療は「治す医療」から「支える医療」への変化が必要となりつつあります。
当院は他職種とも連携し、質の高いチーム医療の実践を目指しています。

地域医療

ＨＩＴＯ病院は「24時間365日の断らない救急医療」を基本方針に、地域の中核病院として成長を遂げてきました。多くの医療機関、福祉施設などと連携しながら、地域の皆さまのいきるを支える。地域密着型の病院です。

救急医療

愛媛県四国中央市の救急医療の指定病院として、年間約1,700台の救急車を受け入れています。救急研修や当直では研修医がファーストタッチを行い、多くの症例の経験を積みます。

プライマリケア

総合診療医の指導のもと、患者さま中心の全人的な医療を実践。臨床医として不可欠なコミュニケーションスキルと、柔軟な診断能力が身に付きます。

専門医療

11階建ての病院内では、救急からＨＣＵ、手術室、一般急性期・地域包括ケア・回復期リハビリテーション・緩和ケアまで、多岐にわたる医療を展開。その中でも脳卒中センター・人工関節センター・糖尿病センターなど専門的医療にもチャレンジできます。

チーム医療

「患者さま中心の質の高い医療」という考えのもと、当院では他職種共同フラット型チーム医療を実践しています。
診療や職種の垣根を越えたチーム医療にも参加する事が可能で、各職種それぞれの専門性や役割を学びます。

TOPICS

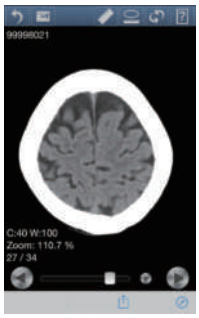
ICTで医療の質と研修の安心をサポート

当院では、2017年より「未来創出HITOプロジェクト」として、高齢化や働き手の減少という課題に対して、医療の質の向上を目的にICT の利活用に取り組んでおります。「ひと」が中心という当院のコンセプトに基づき、医療の質と業務効率の向上を図るため、日勤帯のスタッフ（医師含む）にiPhoneを支給しております。研修医にとっても、忙しい研修の味方になっています。

①iPhone で電子カルテをいつでもチェック

音声入力が可能なiPhoneカルテ（Newtons Mobile）を活用し、患者情報にいつでも、どこでもアクセスできるようになっています。PC端末のある場所まで戻る必要がなく、必要な時に素早く情報を入手できる環境のため、効率的な研修が可能になります。

カルテ閲覧・入力


放射線画像閲覧

検温結果

検査結果参照
オーダー参照

②SNS による多職種コミュニケーション

院内SNSのCisco Webex Teams（通称：Teams）は、場所を選ばず、リアルタイムに1対多のコミュニケーションが可能で、写真の添付や音声入力もでき、多職種のチームや病棟内での情報共有において、とても便利なツールです。「既読」の表示により確認済であることを把握でき、また、遡って閲覧も可能で、情報の共有漏れを防ぐことができます。

不急の連絡にTeamsを使用することで自分のタイミングで用件の確認ができ、効率的な時間の使い方が可能となります。

③院内どこでも情報閲覧

薬剤処方実績や入院後続発症の実態などの情報が確認できる医療従事者向けの実臨床データ検索アプリをインストールしており、医療従事者の処方説明等の助けとなっています。

また、愛媛大学医学部の学内LANの接続環境があり、大学での必要情報を当院にいながら取ることが可能です。

④院内資料やメールも iPhone で閲覧

外部とのメール、院内の各種資料の閲覧はグループウェアで行います。こちらもiPhoneからアクセス可能で、PCに戻ることなく、スキマ時間が有効に利用できます。会議資料や議事録なども確認が可能で、煩雑な書類整理からも解放されます。

HITO病院 初期臨床研修プログラム

募集要項

◆身分：　常勤医（初期研修医）

◆定員：　3名（実績：2019年度 2名、2018年度 3名、2017年度 1名、2016年度 2名）

◆給与：　1年目 基本給：350,000円

2年目 基本給：550,000円

※別途当直手当、時間外手当、賞与あり

◆勤務時間：　8時30分～17時30分（週40時間）

◆当直：　1年目7月以降　月4回程度

◆休日：　年間休日108日（2020年度予定）

◆休暇：　年次有給休暇、メモリアル休暇、HITOいきホリデー（連続休暇制度）、

年末年始休暇　ほか

◆保険：　健康保険、労災保険、雇用保険、厚生年金保険

募集要項

1.応募資格　医師免許を取得している者、または2021年3月に取得見込の者

2.試験・試験内容　面接試験および適性検査

3.見学日・試験日　ご希望の日時に応じて随時調整いたします

4.出願書類等　自筆の履歴書・卒業見込証明書・成績証明書・健康診断書

5.出願書類提出先　〒799-0121　愛媛県四国中央市上分町788番地1

社会医療法人石川記念会　HITO病院　臨床研修センター 事務局

TEL:0896-59-6380 FAX:0896-59-6381 URL:http://hito-medical.jp/

プログラムの特徴

Point 1 研修医による研修医のための研修プログラム

研修の選択科目は、複数用意しています。さらに、ご希望に合わせて組み合わせも可能です。研修医一人ひとりのニーズに合わせたプログラムをオーダーメイドで作成していきます。2年後の理想が実現できるプログラムを一緒に考えましょう！

研修プログラム構成（例）

形成外科の道を志望したある初期臨床研修医は、以下のようなプログラムで2年間研修を行いました。

1年目											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内科			麻酔科	外科	救急			循環器内科	形成外科	脳外科	内科

2年目											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内科	婦人科	神経内科（＋救急）		地域	整形外科		総合診療科（＋救急）		精神科(協力型病院)	形成外科	

先輩の声 Senior voice

研修開始当時は、内科系に進もうと考えており、形成外科の道に進むとは考えてもいませんでした。研修中に形成外科に興味を持ち、形成外科医になろうと思った後は指導医の先生方とも相談してプログラムも変更していきました。
診療科が変わっても柔軟に対応できる体制はとても魅力的でした。そして指導医の先生方には今後のキャリアについてとても親身になって相談に乗っていただきました。多くの先生に色々な意見を聞いた上で、納得して進路を決めれた事は本当にプラスとなり、心強かったです。

2020年度からの制度変更について

ご存じの通り、2020年に臨床研修制度が改正され、小児科・産婦人科・精神科・外科・麻酔科・外来研修が必修となりました。当院に無い診療科の研修は、協力型病院と連携して対応いたします。

Point 2

少数精鋭の研修体制

当院の初期研修医の定員は年間3名となっています。その分、各科指導医からマンツーマンの指導が魅力です。自分のペースでじっくり学びたい人にもオススメ。

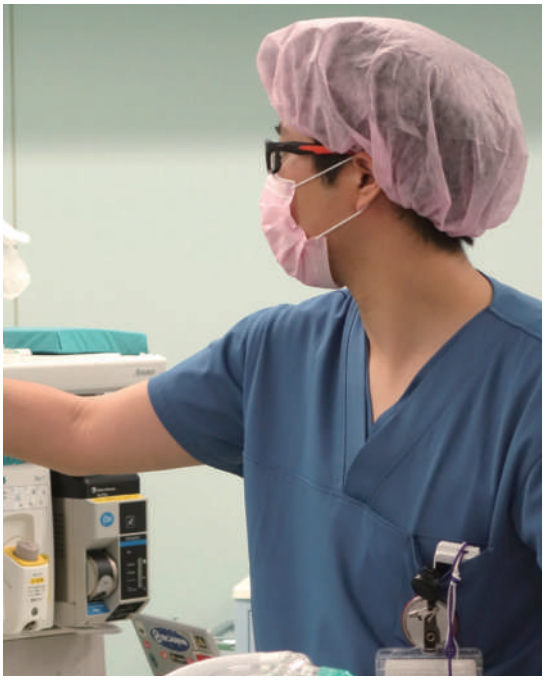
臨床経験の豊かなスタッフが多く在籍し、指導医と研修医のマンツーマン方式を採用しています。また、各診療科の垣根が低く、科を問わず多くの専門医と交流を持ち、気軽に相談することができます。

当院では研修医も貴重な「戦力」と考えています。
臨床現場で多くの手技などの経験を積みたい方にはピッタリの環境です。

先輩の声 Senior voice

当院では救急搬送があった場合は研修医にコールがかかり、ファーストタッチから、検査オーダー、治療の方針立てまで、研修医が担当します。年間の救急搬送数も1700件以上あり、豊富な症例を経験することができます。
指導医の先生や先輩研修医が随時フィードバックをしてくれるなどマンツーマンで熱い指導をしてくれます。また、看護師や臨床工学技士、放射線技師等の多職種のスタッフが教えてくれるので、次に生かせる研修生活を送ることができます。多様な症例の経験を積むことができ、自信も着実についていきました。

（沖田研修医）



Point 3

レジデントレクチャー（通称：レジレク）

当院では、上級医全員が研修医向け勉強会（レクチャー）を開催しています。
レジレクの愛称で院内に広まり、やる気あるスタッフたちと一緒に学びを深めます。
毎週1回程度、30～60分程度のレクチャーです。

Point 4

学会発表＆資格取得もサポート

学会発表やＩＣＬＳ・ＡＣＬＳなどの資格取得も積極的にサポートしています。
また論文執筆の支援や全国の研修医との交流研修などにも参加することができ、さまざまな経験を積むことができます。

Point 5

充実の協力型病院

・愛媛大学医学部附属病院（644床 愛媛県東温市）

当院にはない診療科や病理解剖など、地元愛媛県の大学で学ぶことができます。

・北部地区医師会病院（236床 沖縄県名護市）

沖縄で研修できるチャンスがあります。特に循環器内科や心臓血管外科に興味がある方にお勧めです。

・大阪市立総合医療センター（1063床 大阪府大阪市）

大阪市の三次救急病院として、乳児から成人まで重症患者の救急対応を集中的に経験することができます。

・公立学校共済組合 四国中央病院
(275床 愛媛県四国中央市)

小児科・産婦人科・精神科については、同じ四国中央市（当院から車で10分）にある四国中央病院で研修することができます。

・グループ関連施設

クリニックでの研修に加え、介護施設や在宅医療等の現場も経験できます。住み慣れた場所で暮らすためのサポートを。

沖縄県北部医師会病院での研修

指導医の先生の下、週20件以上のカテーテル治療（冠動脈検査・治療、アブレーション、ペースメーカー植え込み、肝動脈塞栓療法、動脈塞栓術etc.）を経験しました。（指導医の先生に認めてもらえれば一番として手技をすることも、、、）また、麻酔科志望であったこともあり、心臓血管外科の手術麻酔（大血管置換術、弁置換術、冠動脈バイパス術）を経験することもできました。

忙しい研修の中、北部地区医師会病院の研修医とも仲を深めることもでき、沖縄という土地柄、時間があるときは海や観光地を満喫し、非常にメリハリのある研修を送ることができました。

（沖田研修医）

Resident Voice

臨床研修医の生の声 1

村山 健太郎
Murayama Kentarou

埼玉県出身
2019.3 愛媛大学卒

Q 当院の初期臨床研修に期待していたことは？それは期待通りでしたか？

A. 研修医が対応できるような一次救急から二次救急の症例を数多く経験できることを期待していました。実際に日中の救急のファーストコールを受けることが多く、研修中の科での処置などが無いときは常に診ることができており、期待以上にタッチできていると思います。

Q 当院の研修の、他院にはないアピールポイントはどんなところですか？

A. 今も述べたように柔軟なカリキュラムで救急対応ができるところと、他科の研修中でも処置や手術に呼んでもらえることです。それからご飯がおいしいところです！（笑）

Resident Voice

臨床研修医の生の声 2

渡邉 拓郎
Watanabe Takurou

愛媛県出身
2019.3 愛媛大学卒

Q 当院の研修を1年間終えてやりがいを感じたことはありますか？

A. 病棟業務や手技など大変ながらもやりがいがあることばかりですが、救急対応から退院まで上級医と相談しながら一貫して医療に関わることができたときに医師という仕事にやりがいを強く感じました。

Q 当院にはどのような先生や医療スタッフがいますか？職場の雰囲気は？

A. 先生は優しい方ばかりで丁寧に指導してもらっています。医療スタッフの方はとても活気があり、医師とも積極的に話し合っている姿が印象的です。

Q 当院の研修に関心を持ってくれている学生さんへメッセージを

A. 実際に1年間働いてみて、経験できる症例は非常に多いです。必ず先生のフィードバックがあるのでとても勉強になります。救急車の台数や病床数を気にせず、まずは足を運んで空気を肌で感じてください。きっとここで働きたくなると思いますよ。

Resident Voice

臨床研修医の生の声

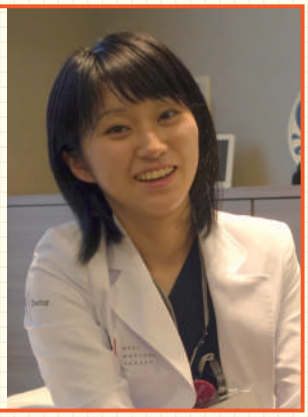
3

松本 優

Matsumoto Yuu

兵庫出身

2019.3 愛媛大学卒



2年間の研修を終えて

HITO病院で研修をして得られたのは「救急対応力」と「総合力」です。救急車は毎日来ますし、内科・外科に分かれていない全科救急で診ています。研修医は各科のローテーションを回りながら救急も診ることができます。これはあまり他の研修病院では聞かないやり方で、毎日緊張感があって充実していました。研修医同士で救急症例について話し合う機会も自然に増えました。

また四国中央市は高齢者も多く、2年間で高齢者のcommon diseaseは自信を持って診られるようになります。とはいえ、実際には社会的背景や身体的要因のため教科書通りに行かない悩ましい症例も多々ありました。一つの疾患や一つの診療科で説明のつかない場合が多く、各科の研修ローテーションでは消化しきれない部分もあります。

研修医による救急対応の様子

HITO病院での研修の利点は、科を超えての学びが非常に多いことです。例えば内科研修中でも、めまいで耳鼻科に紹介すればそのまま自分で眼振検査を行ったり、急性腹症で外科手術に立ち会うこともあります。研修病院としては小さな病院だからこそできる研修スタイルです。各科の経験豊富な指導医の先生方のもとで一例一例診療にあたるうちに、「疾患を治す」だけでなく「ひとを診る」ことの意味や重要性を理解することができました。将来どの診療科に進んでも必要な総合力が身に着いたと思いますし、今後の強みになると感じています。

駅伝部の仲間と

忙しそうに感じるかもしれませんがオン、オフははっきりしていて、休暇も十分に取ることができます。サークル活動も充実しており、私は駅伝部で市内を走ったり、軽音楽部でHITOフェスタというイベントで演奏したりしました。研修だけでは関わることが少ないような他職種のスタッフと仲良くなれ、仕事のいい息抜きになっていました。このように接点のないスタッフも、皆さん気さくで話しかけやすく、いつも笑顔があふれている職場で働きやすかったです。

各診療科紹介

各診療科の一部をご紹介します

1.総合診療科

General Department

患者さまとより近い関係で、「寄り添う医療」を実践

患者のために
病院を横断的に動き支え合う

地域を診る医師として、社会のニーズ、時代の要請として総合診療専門医は誕生しました。患者さまを総合的に診る診療科として、全身を意識した医療、患者さまの背景を意識した医療、患者さまのこころに寄り添う医療を行います。
総合診療科ではとにかく多くの症例を経験して、臨床能力を高めるトレーニングを行います。救急のファーストコールはもちろん、初診外来や病棟管理などにもチャレンジします。また当院では基幹型の後期研修プログラムもあるため後期研修を見据えた指導を実践していきます。

副院長
総合診療科 医長

田中　伸二

田中先生は形成外科専門医でありながら、総合診療にも従事し、横断的な診療を行っております。総合診療専門研修プログラムの指導医としても、後進の育成に当たっています。

地域医療を支える総合診療医を目指して

2018年4月より新専門医制度がスタートし、総合診療科も基本領域として新たに加わりました。日本における総合診療医の位置づけはまだ不透明なところも多いですが、逆に多様な働き方や患者さんとの関わり方を実現する、可能性を秘めた分野であると思います。いずれ何らかの専門を持つとしても、後期研修の３年間は疾患や臓器別の考え方にとらわれずcommon diseaseを中心とした診療を行い、初期研修で培った知識や技術を深化させていきたいと考えています。

当院は急性期から患者さんが退院した後まで継続して診療を行うことができ、総合診療を行う上で最適な環境だと思います。地域医療を担う若手医師として地域の皆様のお役に立てるよう、今後も頑張りたいと思います。

2016年卒 井原 康輔

HITO病院 総合診療医 後期プログラム 平成30年度より始動

HITO中心の総合診療プログラム(基幹型)

2018年度より後期研修プログラムとして、地域医療を担う「総合診療専門医」の育成に取り組んでいます。診療領域を問わず適切な初期対応ができ、また病気だけでなくその人の置かれた社会的状況なども考慮した総合的な医療が実践できる臨床能力の高い医師の育成を目指しています。

研修内容と到達目標

患者の情報を過不足なく明確に指導医や関連職種に報告し、健康問題を迅速かつ正確に同定することを目標とします。カンファレンスでのプレゼンや、学会発表も重要視します。(総合診療専門研修Ⅱ・内科)

診断や治療プロセスも標準的で患者を取り巻く背景も安定しているような比較的単純な健康問題に対して的確なマネジメントを提供することを目標とします。(内科、小児科、救急をメインにローテートします)

へき地診療に携わり、多疾患合併で診断や治療プロセスに困難さがあったり、患者を取り巻く背景も疾患に影響しているような複雑な健康問題に対しても的確なマネジメントを提供できかつ指導できることを目標とします。(総合診療専門研修Ⅰ)

ローテーション一例

1年目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
施設	HITO病院											
領域	総診Ⅱ						内科					
2年目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
施設	協力型病院			HITO病院						協力型病院		
領域	救急			内科						小児科		
3年目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
施設	HITO病院	クリニック		HITO病院	へき地		HITO病院		クリニック		HITO病院	
領域	その他	総診Ⅰ		その他	総診Ⅰ		その他		総診Ⅰ		その他	

１日の流れ

◆外来診療日

8:30				12:30	13:30				17:30	
外来診療				休憩	救急対応					当直
総合診療科の初診外来を担当します。 患者に適切な診療科へのトリアージを行います。 午前中で約20~25名の患者様の診察を行います。					救急搬送やウォークインの患者様の対応を担当します。 指導医・初期研修医とともに初期対応を行います。					月に2回程度行います。

◆外来診療のない日

8:30				12:30	13:30				17:30	
救急対応・病棟業務				休憩	救急対応・病棟業務					
1日で5~7件程度、救急にて受入対応します。					救急対応以外の時間は病棟業務として回診やカンファレンス、各科とのコンサルタントも行います。					

2.内科

Internal Medicine

心臓病・糖尿病・消化器疾患を中心に
現代人特有の生活習慣病を学ぶ

内科系コースでは、内科全体にわたる疾患についての診療・治療に関する知識と技術を習得します

消化器内科

消化管（食堂・胃・小腸・大腸）領域から肝臓胆嚢膵臓領域まで全ての消化管疾患を急性期から慢性期まで多くの疾患の診療を行っています。また消化器外科と迅速に連携し、消化器疾患の治療をスムーズに行うようにしていますので、研修医には一連で必要な治療に参加してもらっています。研修期間に応じて到達目標を定めワンツーマンで指導します。ある研修医は1年目で150例の検査に参加しました。

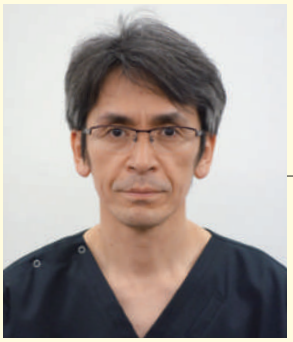
消化器内科部長

扇喜　智寛

内視鏡は手技と診断の両方を磨いていく必要があります。まずは内視鏡モデルも用いたトレーニング等からスタートしますが、一定のレベルに到達すれば患者を対象とした実技指導を行います。消化器内科を目指す方はもちろん、そうでない方も後に役立つ経験ができるようサポートします。

循環器内科

一刻を争う循環器疾患では、適切な初期治療が生死を分けるため、常時（24時間）緊急冠動脈造影、ＰＣＩが可能な体制を整えています。重症な心不全や心肺停止の患者さまに対しては、経皮的心肺補助装置（PCPS）を装着し、治療することが可能です。



副院長／
循環器内科部長

伊藤　彰

循環器内科では、副院長の伊藤彰 循環器内科部長が治療にあたっています。伊藤副院長は、1988年からPCIを開始し、これまでに5,000例以上の施行実績があり、コロンブス病院（イタリア　ミラノ／ステント治療のパイオニアであるコロンボDr.に師事）や国立循環器病センター、大阪市立総合医療センターを経て、当院に来られました。現在は、日本冠疾患学会理事などを務めています。

糖尿病センター

糖尿病は、合併症も含めて全身管理が必要となる疾患です。入院患者への対応はもちろん、糖尿病専門医により、糖尿病の基礎知識及び専門知識の習得ができます。また、糖尿病チームを多職種にて結成し、定期的に「糖尿病教室」を開催し、地域住民の方に糖尿病の基礎知識や予防についての教室を開催しています。地域の方も多数参加される人気の教室で研修医も講師を務めます。

糖尿病講演会の様子

3.整形外科

Orthopedics

整形外科をじっくり学びたい人へ
豊富な手術件数、関節外科・脊椎外科手術

整形外科医としての基本的な「診断」「処置」「治療」「手術」を習得

整形外科コースでは外傷、慢性障害、スポーツ障害などＱＯＬに関わる幅広い分野を対象としています。急性期から回復期・維持期と継続的な治療が可能な環境のもと、診断・処置・治療・手術に豊富な経験を積むことが可能です。その上、関節や脊椎に関しては専門外来も開設しており、より専門性の高い外来治療を行っております。

豊富な手術件数！

整形外科の魅力は、何と言っても豊富な手術件数です！研修を通して助手から執刀医を経験し、整形外科専門医への基本手技を習得します。

人工関節センター

人工関節センター
センター長
整形外科部長

間島　直彦

「宇摩地域の中でより良い人工関節医療を多くの患者さまへ」をコンセプトに2016年4月に「人工関節センター」を開設しました。当院は、平成26年より愛媛大学医学部附属病院人工関節センターのサテライト病院として機能しており、宇摩地域の開業医の先生方よりすでに多くの患者さまをご紹介いただき、人工関節手術を数多く行っています。

人工関節センターの特徴

1. 愛大と連携し、難治症例や再置換症例も対応可
2. 患者の不安を払拭する入院前からの細やかな説明
3. 人工関節専門の多職種スタッフ
4. 入院前から退院までの充実したリハビリテーション
5. クラス１００の清潔なバイオクリーン手術室
6. 麻酔医による術前術後の疼痛対策
7. HCUでの全身管理や合併症への対応
8. ２次救急病院として異常時には２４時間受け入れ可能
9. Navigationを用いた正確な手術

先輩の声 Senior voice

ＨＩＴＯ病院に入職した際は、何を目指すか漠然としていましたが、研修を通じて整形外科に興味を持ちました。早くから手術などの経験を積める事も魅力でしたし、subspecialtyが多彩の為、一つを極めるもオールラウンドに経験するにも良いと思いました。

4.形成外科・美容外科Be

Plastic surgery
Cosmetic surgery Be

救急外傷での創傷処置・
美容センターでの研修

当院人気の診療科
手技レベルの向上を目指します

当院は、常勤医師３名体制で形成外科診療を行っています。形成外科学は、傷跡をきれいに治すことが強く求められる外科学です。初期臨床研修では、切除・縫合といった基本手技の習得を目指します。形成外科以外を志望している先生にも手術や救急外来・病棟での処置を通して、基本的な皮膚の扱い方をはじめ、創処置の基本を学んでほしいと思っています。

創傷ケアセンター

医師や看護師だけではなく、治療に必要なその他の診療科や医療スタッフと連携した治療を行っています。糖尿病療養指導士によるフットケアをはじめとして、管理栄養士による栄養指導など、治療後のアフターケアまで行える体制を整えています。また地域の施設の方に、創処置についての理解を深めてもらう啓蒙活動を目的として出前講座等も行っています。

褥瘡ケアの手技実演指導中

美容外科Be

美容外科Ｂｅはプライバシーに配慮した設計になっており、入館は専用玄関・エレベーターで受付まで直通です。看護師だけでなく、エステティシャンも加わり、日常のスキンケアから美容外科手術まで患者さまのニーズに沿ったトータルケアを提供しています。形成外科だけでなく美容分野も経験できる事も魅力の一つです。

5.救急科

Emergency Department

地域の第一線で救急医療を学ぶ

医師の基礎となる診療能力と経験を救急の現場で培い実践します。

HITO病院は、四国中央市（宇摩医療圏域）における地域中核病院です。
地域に根ざした病院としてプライマリケアや専門医療、更には、在宅医療や終末期医療まで、幅広い医療を地域の医療ニーズに添って展開しています。救急科では経験・スキルはもちろん「病を診るのではなく人を診る」という当院の理念のもと研修を実施します。

循研修体制と一人あたりの経験値で不安を自信に。

初期研修医にとって救急業務は、不安を感じている部分でしょう。
当院の救急搬送件数は年間約1,700台ではありますが、初期研修医数は最大6名でローテートしていますので、2年間を通じて一定の救急対応は可能です。そして当院救急科では昼夜問わず救急車対応は研修医にファーストコールが来ますので（夜間は当直の研修医）、他科をローテートしている研修医でも時間がある時やサポートで積極的に対応しています。

また、ファーストタッチだけでなく、手技、診断、他科コンサルテーション、集中治療など一連で対応し、組織横断的にチーム医療を実践します。特に総合診療とは密に連携を取り、幅の広い診療に対応しています。このような研修医にチャンスが多い環境だからこそ、不安を自信に変える事が可能です。

総合力のある医師を育む

救急はプログラム上、必修科となっていますが、初期研修医の中で将来救急医療を担う人は一部かと思います。ですが、医師として1人でも多くの命を救うことができるよう、実践や教育を通じて見落としてはいけない兆候や、広く使える診断のコツなどを習得してほしいと考えています。

個人の希望に応じては、協力型のハイボリュームセンターにおける救急研修などを通じてステップアップできる環境も整備しています。

病院長／救急部 部長
相引　眞幸

2019年4月、当院病院長に就任。2019年3月以前は愛媛大学医学部 救急医学教授として、長きに渡り愛媛県の救急医療に心血を注いでいます。
麻酔科標榜医、日本救急医学会専門医、日本集中治療医学会専門医、日本救急医学会指導医、愛媛県Medical Control協議会会長、アジア蘇生協議会(Resuscitation Council of Asia: RCA)事務局長　など

大阪市立総合医療センターでの研修を通して

11、12月の2ヶ月間、協力型病院の大阪市立総合医療センターの救命救急部にて研修をさせていただきました。3次救急やICU管理を中心に様々な症例を担当でき、HITO病院で学んだ知識や技術が更に深まりました。

中でも、“チームダイナミクス”を学べたことは貴重な経験となりました。明確な役割分担や互いを尊重する姿勢を基盤に、「蘇生」という目的を完遂するためにチームを動かす。言葉は難しいですが、症例を重ねるうちに少しずつこの考え方を意識できるようになりました。今後はこの“チームダイナミクス”をHITO病院でも活かせるよう、アクションを起こしていきたいと思います。

6.脳神経外科 脳神経内科

Neurosurgery
Neurology

超急性期から在宅まで
脳卒中センター、回復期リハビリテーション

超急性期から生活期まで チーム医療で行う 脳卒中治療を習得。

脳卒中センター

当院では24時間365日、脳神経疾患患者さまの受け入れをしております。脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの脳卒中は緊急治療が必要な病気です。2014年4月より脳卒中センターを開設し、一刻を争う脳卒中に対して、より迅速な診断・治療を提供しています。

また、2019年より救急隊と連携し、脳卒中ホットラインを開設いたしました。脳卒中疑いの患者さんがいれば、救急隊より当院の脳神経外科医、脳神経内科医へ直接つながり、情報共有されることでいち早く専門治療へと移れるようになりました。四国中央市の脳神経疾患は全て当院に搬送される為、症例も豊富です。救急医療からリハビリまで幅広く研修できます。

また、脊椎・脊髄外科専門である松井誠司先生が来院し、脊椎疾患の診療や最新の脊椎外科用ナビゲーションシステムなどを使用した手術も行われています。

脳卒中センター
副センター長
篠原　直樹

愛媛県四国中央市出身で、1995年に愛媛大学医学部卒業後、同大学脳神経外科入局。2014年HITO病院に入職。脳疾患はもちろん、2017年1月に統合型歩行機能回復センターを開設し、センター長として「歩行」という幅広い治療にも従事しています。

血管内治療の充実

四国でも数施設しかない脳血管内治療の指導医による治療が提供できる施設です。研修医を含む若手医師の育成にも注力しており、各専門治療について、上級医からマンツーマンで指導を受けられる環境があります。

血栓溶解療法（t-PA治療）や血栓回収療法など、体への負担が少なく、回復が早い治療にも積極的に取り組んでいます。

脳卒中センター
脳血管内治療科　部長
岡本　薫学

2013年脳神経外科学会専門医、2016年脳血管内治療指導医を取得。四国内でも脳血管内治療の指導医は少なく、また、市内でカテーテル治療ができる施設は当院だけです。脳動脈瘤を早期発見・早期治療することで、死亡率が高く、重篤な後遺症を残す可能性の高いくも膜下出血の予防に取り組んでいます。

充実した診断治療機器であらゆる症例に対応

１２８列２管球ヘリカルＣＴ、３Ｔ・ＭＲＩ、フラットパネル・バイプレーンＤＳＡなどを備えており、神経学的診察を含めた脳卒中の初期診断技術も研修していただけます。手術については、ナビゲーションシステム、神経モニタリング、３次元融合手術シミュレーション、術中CT「AIRO」などの最新の医療機器を備え、安全・確実な医療を目指しています。また、最新の手術顕微鏡、神経内視鏡などを用いて低侵襲な手術も行っています。脳神経外科手術の助手や基本手術の執刀医にもなっていただきます。血管内治療も研修できます。

当院は難病指定医療機関です

頭痛、めまい、しびれ、認知症などを中心に脳神経疾患全般を対象に常勤医師2名体制で診療を行っています。 脳神経外科、総合診療科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科など他科との連携が必要な神経疾患もスムーズに診療することが可能な上、地域との病診連携を積極的に深めており、難病ネットワークを当科が中心となって運営するなど患者支援を積極的に行っています。
神経内科専門医の准教育施設として、若手医師の育成にも取り組んでいます。

最新のリハビリテーション

当院では、緩徐進行性の神経・筋疾患の進行抑制治療において、歩行機能の改善効果が示された新たな医療機器であるサイボーグ型ロボット「HAL®(Hybrid Assistive Limb®)」を使用したリハビリテーションを行っています。当院で使用しているHAL®には、「医療用下肢タイプ」「自立支援用単関節タイプ」「自立支援用腰タイプ」の3種類があります。

Prof. Sankai, University of Tsukuba / CYBERDYNE Inc.
※「HAL」は、CYBERDYNE 株式会社の登録商標です。

「HAL® 医療用下肢タイプ」の仕組み

装着者が筋肉を動かそうとした時、脳から脊髄～運動ニューロンを介して筋肉に神経信号が伝わり、筋骨格系が動作します。

↓

このとき、微弱な BES(生体電位信号) が皮膚表面に現れます。HAL は装着者が立ち上がりや歩行をしようとした時の“生体電位信号”を読み取り、その動きに応じたアシストを行います。

↓

HAL を用いて“歩く”という動作を適切にアシストしたとき、“歩けた！”という感覚のフィードバックが脳へ送られます。これにより脳は“歩く”ために必要な信号の出し方を少しずつ学習することができます。

↓

これにより、緩徐進行性の神経・筋疾患により歩行機能が低下した患者の病気の進行を抑制し、治療に繋がる。

6.外科・乳腺外科

Surgery

早期発見・早期治療

研修早期からの手術参加で早い成長が見込めます！

【外科】
消化器外科を中心に広範囲の外科疾患を診療しています。研修早期から手術に積極的に参加することにより、手術の面白さや醍醐味を経験できます。また、愛媛大学消化管腫瘍外科の教育施設として若手医師の指導も行っています。

【乳腺外科】
乳腺外科は2018年4月に開設された診療科です。患者さんを「もともとの生活」に「今まで通りの状態」で戻すことを目的に、多職種でのチームとしてアクティブに活動しており、地域密着型の大病院では学べない経験ができると思います。

乳腺外科部長
外科部長
肛門外科部長
消化器内科部長

小坂　泰二郎

乳腺外科部長の小坂先生は、1997年に順天堂大学を卒業し、2018年4月に当院に着任されました。患者さんを中心にした医療に重きを置き、入院・外来・手術・抗がん剤・検査・リハビリ・心理・就労支援などのあらゆる面を多職種でサポートしています。

7.緩和ケア

Palliative care

緩和ケア病棟（がん）・在宅・地域のつながりを修練する

当院は「がん診療連携推進病院」です。

当院は愛媛県がん診療連携推進病院に指定されており、地域で専門的ながん治療を提供し、がん診療に貢献する役割を担っています。当地域唯一の緩和ケアの専門医がおり、マンツーマンの指導体制となります。痛みなどの症状緩和からエンドオブライフケアまでを、様々な職種と協働で行っています。

緩和ケア内科総括部長　大坂　巖

【略　歴】千葉大学医学部附属病院、静岡県沼津市立病院などを経て、2002年同県静岡がんセンターに入職。2010年より同院緩和医療科部長として勤務。緩和医療専門医。日本緩和医療学会・日本がんサポーティブケア学会・日本サイコオンコロジー学会

【一　言】緩和ケアは、医療の中で必要不可欠な領域であることが認められてきています。短期間であっても緩和ケアを学んでおくことは、皆さんの医師人生において潤いを与えてくれることでしょう。

その他の診療科

8.放射線科

内科、外科をはじめとする様々な診療科と連携をとり、診断材料、治療方針を立てる上で必要となる画像情報を提供しています。CT、MRI検査については、検査を施行した当日中に、ほぼ全件読影を行っています。また、地域の医療機関とも連携し、検査依頼を受け、画像所見の提供も行っています。

9.耳鼻咽喉科

平成29年9月に新規開設。愛媛大学医学部附属病院と連携して医療圏域はもちろん、圏域外からも多くの方が受診されています。他科とも連携して外来、病棟、手術の基礎を学びます。

10.婦人科

経験豊富の指導医のもと、子宮がんや子宮筋腫、卵巣嚢腫など診察、手術、処置を行います。また四国中央市での子宮がん検診の受診率向上に貢献すべくあらゆる活動に取り組んでいます。

11.麻酔科

指導医とのワンツーマン指導で、毎日手術に参加する事が可能です。
全身管理や挿管が行えるよう1年目前半で研修を行います。

後期研修および専門研修について

【基本領域】

・日本専門医機構総合診療専門医認定施設（基幹型）
・日本内科学会連携施設（愛媛大学医学部附属病院・徳島大学医学部附属病院・住友別子病院）
・日本外科学会関連施設（愛媛大学医学部附属病院）
・日本整形外科学会連携施設（愛媛大学医学部附属病院・愛媛県立中央病院）
・日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練施設（徳島大学医学部附属病院）
・日本形成外科学会教育関連施設（徳島大学医学部附属病院）

【サブスペシャリティ】

・日本消化器病学会認定施設
・日本消化器内視鏡学会指導施設
・日本循環器学会研修関連施設
・日本肝臓学会関連施設
・日本神経学会准教育施設
・日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設
・日本脳卒中学会研修教育病院
・日本人間ドック学会健診研修施設

【その他】

・日本病院総合診療医学会認定施設
・日本病院会病院総合医育成認定施設
・日本がん治療認定医機構研修施設

HITO病院 臨床研修プログラム

HITO | LIFE

～はたらくを支える福利厚生～

研修医宿舎完備

遠方から来られた研修医のみなさんに安心して生活してもらえるよう、一般のアパートを当院にて借り上げ、研修医宿舎として格安（当院が家賃半額負担）で提供しています。

夕食無料バイキング

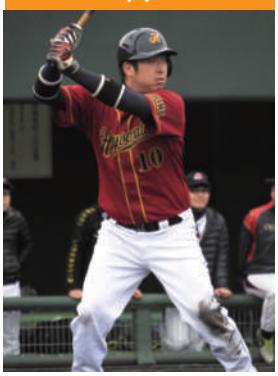
なんと、11Fレストランでは職員の夕食を無料バイキング形式で提供しています仕事終わりに一息つける場として、また多職種のコミュニケーションの場として、皆さんの強い味方となるでしょう。バランスの取れたメニューで健康管理もバッチリです。

ランチもワンコイン
職員はさらに割引！！

クラブ活動

当院では、共通の趣味で集うことができる数々のクラブ活動があります。フットサル、野球、バスケットボール、駅伝、軽音楽、ボードゲーム、バイクツーリングなど。

野球部 Hippocrates



駅伝部 HITO AC

軽音楽部 イヨパミロン

附属保育所「HITO KIDS」

24時間保育が可能な附属保育所を完備しており、子育てをしながら活躍することも可能です。

保育所では、自家給食を提供し、栄養バランスが取れバラエティに富んだメニューとし、出来る限り野菜を多く取り入れる工夫がされています。おやつも手作りして「食育」にも力を注いでいるため、お子様を預けて安心して勤務することができます。また、育児休暇も希望者は100%取得できますので、ライフスタイルを尊重した勤務が可能です。

「くるみん」マークを取得しました

「くるみん」マークとは厚生労働省によって制定されたマークで、職員の子育てを支援するために行動計画を策定し、そこに定めた目標を達成するなど、雇用環境に関して一定の要件を満たした企業にのみ使用が認められるものです。

おしゃれで動きやすい制服

優れた機能性、丈夫さと優しさが感じられるデザイン。職種別に色が異なり、医師はブラックのスタイリッシュな制服です。

研修医室・当直室

医局の中に研修医専用の部屋を完備しています。図書や1人1台の端末を用意し、他病院とのネットワークや文献検索のツールが豊富。当直室も完備しています。

研修医となる君たちへ

「医師としての成功を目指して」

臨床研修プログラム責任者　大坂 巌

医師は一生学び続けなければならない職業である。学べば学ぶほど知識も技術も確かなものとなり、多くの患者・家族にとって救いとなる。生涯学習の第一歩を踏み出す場として、HITO病院は理想的な環境である。専門分野やキャリアが多様な人材が揃っており、各科の風通しが非常に良く、ICTを中心とした働き方改革にも積極的に取り組んでいる。

未来の名医達にネルソン・マンデラの言葉を送りたい。「成功するために大切なのは、どこから始めるのかではなく、どれだけ高く目標を定めるかである。」

ぜひ、私たちの仲間に加わっていただきたい。

「これから求められる人材とは？」

臨床研修プログラム責任者　岡本 薫学

医師として新たな人生が始まるにあたり、もうすでに将来の人生設計ができている方から、まだ自分がどのような医療に携わりたいのか悩んでいる方まで様々だと思います。

さて、これから求められる人材とは、どのような人材なのでしょうか？10年後、20年後の医療を想像し、進むべき道を選択する必要があります。近年、患者さんを総合的に診療できるgeneralistの育成が重要視されています。初期研修の2年間、基本的知識・技術を身につけることはもちろん大切ですが、患者さんを全人的に診る能力を身につけることも大切な研修ではないでしょうか。

「いきるを支える。」私たちのモットーです！一緒にがんばりましょう！

「先輩に学べ！！」

臨床研修センター長　伊藤 彰

卒業して大学の内科教室に入局した時にはこれから何を専門にするか決めかねていました。そこで出会った６年先輩の循環器の先生が鮮やかにカッコよくカテーテルをやられる姿を見て循環器への興味が大きくなり、卒後３年目から国立循環器センターのレジデントに応募しました。

レジデント時代はスタッフ指導医から学ぶことよりも、１～２年先輩の先生から学ぶことの方が多かったように思います。夜遅くまで病棟や医局で議論をして研鑽を深めることができました。出身大学も経歴も異なる色々な先生がいて、医師としてのキャリアパスを考える上でも影響されることも大きくありました。良いところは真似をするし、ダメなところは反面教師とする、そういう判断もできるようになります。

HITO病院にも出身大学、年代、経歴が異なる先生がおられ、画一的でない指導が受けられるのが強みになっています。ハード面での研修環境も実に充実しています。２年間の研修はあっという間です。日々是研修！Good luck!

H

HITO
MEDICAL
CENTER

1st. Human

いきるを支える。

HITO病院
採用ページ

HITO病院
Facebook

IHG LINE
公式アカウント

社会医療法人石川記念会 HITO病院

〒799-0121 愛媛県四国中央市上分町 788 番地 1
TEL：0896-59-6380　FAX：0896-59-6381
URL：hito-medical.jp